令和２年度 研究の概要

『主体的に学び、共に高め合う生徒の育成』（３年次）

～「見方・考え方」を働かせる学習活動の工夫～

１． 研究主題設定の理由

今回の学習指導要領の改訂で、子どもたちが予想困難な社会の変化に主体的に関わり、未来の社会を切り開くための資質・能力の育成が求められている。

本校では、変化する時代を生きぬく「優しさとたくましさをもつ生徒の育成」という学校目標のもと「豊かでしなやかな心と体」「確かな学力」「つなぐ力」の育成を目指し、日々の教育活動に取り組んできた。

昨年度まで、単元構成を工夫し生徒の思考・判断・表現力を高める指導に取り組み、他者との「学び合い」を通した学習活動を工夫しようとする教師側の意識も高まってきている。しかし、全国学力・学習状況調査で生徒の解答状況を見ると、授業で学んだ学習事項を多様な場面で活用させる力が高まっているとは言えないのが現状である。さらに、力を入れてきた思考・判断・表現力の向上はまだ途上である。

以上の課題を受け、特に今年度発生した新型コロナ対策でめまぐるしく変わる教育課程の中、生徒自身の学びを深めるには、各教科の本質に迫る「学習課題」に対し「見方・考え方」を働かせながら追究する学びを構想・実践する必要があると考えられる。そのため、昨年度の研究主題「主体的に学び、共に高め合う生徒の育成」を今年度も継続して掲げ、単元構成を重視し、さらに研究を深めたい。

２． 研究の仮説

単元構成を重視しながら、以下の３点について授業改善・工夫に取り組むことで研究テーマに迫れるのではないだろうか。

①　魅力ある学習課題の設定　　②　対話的な学び　　③　振り返り

３． 研究の目標

生徒自らが各教科の学びに向かい、「見方・考え方」を働かせ、対話や試行錯誤を通じて

①　「知識・技能」を習得しながら学びを深めていく姿

②　他者との関係の中で考え方を修正したり、伝え方を工夫したりする姿

を目指し、題材の開発や単元構成の工夫・改善を図りながら、確かな学力を身につけさせる。

４．研究の方法

① 定期的に、又は必要に応じて研究推進委員会を開き、検討、調整、確認を行う。また、全職員の共通理解および学年部会等で生徒理解を図る。

② 定期的に教科部会を開き、教科の研究テーマ・具体的な手立て等を検討し、授業研究を積み重ねる。(教科部会における事前および事後研究の強化)

③ １１月に校内授業研究会を実施する。また、研究会での授業者以外は１０月までに授業研究（小研）を行い、各事後研究会での学びを通し、授業改善を図る。

５．研究の内容

＜視点１＞　学習課題の設定の工夫

生徒の実態を把握し、主体的に学びに向かう意欲を向上させる「課題設定」

・教科の本質に即した「魅力ある課題」の設定

・生徒にとって必要感や有用感がある「学習課題」の設定

・学ぶ意欲が高まる課題提示・導入の工夫

＜視点２＞　対話を通して、考えを広げ深めるための工夫

既得の見方・考え方を活用して多様な他者と対話的に学ぶ

・自己との対話、他者との対話、作者との対話、資料との対話

・多様な他者との対話を通して，自らの思考を広げ深める場面の設定

＜視点３＞　振り返り活動の工夫

自己の変容（「見方・考え方」を働かされたか）が分かる振り返りの工夫

※昨年度に続き、今年度も学習指導部、他の校務分掌との連携を密にしながら研究を進めていく。

６．研究の計画

４月　研究推進委員会にて、今年度の研究主題、研究方針、研究内容を検討　→　提案

研究推進委員会にて、指導案形式、研究会の持ち方等検討　→　提案

校内研修会にて、今年度の研究主題、研究方針、研究内容を検討

教科部会にて、研究テーマ、研究授業、年間指導計画を検討

６月～１０月　小研

８月　教科部会にて、校内授業研究会への方向性検討

１０月　教科部会にて、校内授業研究会の指導案検討

１１月１１日　校内授業研究会

１月　研究推進委員会にて今年度の成果と課題を確認

２月　研究紀要によるまとめ